一般質問

上村　忠　議員

問　親子の笑顔あふれる遊具のある公園を

答　保護者や関係者と意見交換や提案を伺う機会を設け、年代問わず利用される公園整備に努めたい。

上村議員　旧総合体育館跡地に造られる公園についてお尋ねします。

町内に公園は、いくつかありますが、遊具のある公園は数が少なく、ほとんどが小学生が遊んでいる状況です。

また、遊具の数も少なく少人数でしか遊べません。

その為、就学前の幼児が遊べる様な遊具のある公園は限られています。

このことに、小さなお子さんのいるお母さんたちからも強い要望があります。

そこで、旧総合体育館跡地に新たに造られる公園には、小さなお子さんと親とで、楽しく触れ合いながら利用できる遊具の設置が必要だと考えます。

これは、最近の子育て環境の中、防犯や事故防止のためにも子供だけではなく親子でというのが大切です。また、幼少期の外遊びが、その後の子供たちの運動能力向上につながることも文科省が指針を策定している大事な視点でもあります。質量ともに他の町に無いようなものを計画するべきと考えます。

町の課題として人口減少がありますが、様々な要素があり一朝一夕に解決するものではありませんが、しかし、現在進行中の施策に少し知恵を加えることで、我が町に住み子育てをしてみたいと思わせる一つの要素になるのではないかと考えますが、町長のお考えをお聞きします。

町長　新総合体育館建設に伴う一連の事業が完了したのちに整備する予定で事業を進めてきておりますので今のところは一時的に公園が失われている状況となっているところであります。

公園の維持については日常点検や日頃の適切な管理に努めてきているところでありますが、特に遊具にまつわる事故防止は公園の設置者として最大の注意をはらわなければならず、公園整備とその後の維持管理においては利用していただく上での安全対策、安全確保がもっとも重要であると認識しています。

新たな高美公園の整備に関わっては、従来有していたものと同程度の遊具の設置や形態の回復が基本となりますが、すでに幼児や小学生の保護者から遊具設置等に対するご意見があることも存じておりますので、公園整備のイメージなど具体的な検討に取り組む際には、保護者をはじめ関係者との意見交換や提案を伺う機会を設け、年代問わずに多くの方々に利用される公園整備に努めてまいります。

上村議員　2点ほど確認したいと思います。

1つ目は、年代問わず利用される公園整備とありましたが、そうではなく、特に低年齢層が、親子または保護者と楽しくふれ合いながら体いっぱい使って遊べる遊具が必要であるということ。

2つ目は、現在の町内の遊具の数は4基です。高美公園が現状回復したとしてもブランコと滑り台合わせても6基です。町民の有志の方が関係各位に電話等で調べた結果を教えていただきました。

その中で遊具の数がせたな町が33基、長万部町が34基、八雲町は91基と、我が町はあまりに少ないと思います。せたな町、長万部町に限っていいますと、子供の数は同程度であると考えています。

この2点について、町長はどう思われているのか。

町長　いまある遊具については、小学生の子ども達が多く来られると小さい幼児の方々が遊べないという声も伺っているので、規定とか基準に基づいて年齢層にあった適切な遊具というもの考えていく必要があると考えます。

子供の冒険心をそそる、様々なリスクがありながらもチャレンジする気持ちを育てる、運動能力を高める、そういう部分ではどういう遊具が必要かということをぜひ考えていかなければならないと思います。

いま設置されているものは、ほとんどが人工的に作られている遊具でありますが、花石に石黒さんという方が木を使った遊具、町内でも木を活用して様々な遊具等含めたものを作っていただいている方がいるわけでありますから、そういう方々の思いなんかも受け止めながら自然木を利用した遊具の設置に向けて可能性があるのであればぜひ探っていく必要があると考えます。